

神棚・お神札

Q & A



Q1 なぜ、神棚のお神札を一年ごとに新しくするのですか？

A 「若水」といって、元日の早朝に汲んだ水には特別な霊力があると信じられてきたように、新しいものに宿る瑞々しい生命力は古から今に至るまで、日本人にとって畏敬の対象であり続けています。すべてのものが改まるお正月を迎えるにあたりお神札を新たにするのは、より新しいお力より若々しい生命をいただくこととする日本人の心性に根差した習慣であり、先祖伝来の美風です。

Q2 なぜ、神棚の向きを東や南にするのですか？

A 私たち日本人の主食は米です。それゆえ稲作にもたらされる自然の恵みを代表する太陽への信仰を、私たちは祖先崇拜と共に今日までもち続けています。

太陽は日の神さまの象徴ともされ、とりわけ生成発展の「氣」を感じさせる午前中の、東から南天に昇りつめる太陽の光を尊び、神棚においても東や南を神々が向かわれる吉方としているためです。

Q3 身内に不幸がありました。神事や祝い事、神棚はどうしたらよいのでしょうか？

A 喪中の間は神事や祝い事は遠慮しなければなりません。喪中は喪服を着ている期間のことです。

すが、かつてそれは血縁の濃さなどによる区別があり、厳密に守られてきました。しかし都市化や核家族化などの社会状況の変化と共に曖昧になってきています。今日では最長で五十日(親や子、配偶者の場合)を二応の「喪明け」の目安とし、親密度により期間を考えればよいのかと思います。そして、その間は神棚の前面を半紙などで白紙で覆います。喪明け後は家を清め、平常通りに神事を行うことができます。また、祝い事や祭事の参加も出来るようになります。尚、喪中と忌中は本来別の意味ですが、今では同義とすることがあります。

Q4 厄除のご祈祷を受けたらお神札をいただきます。アパートなので神棚を設けることができません。どう扱うべきでしょうか？

A そのお神札は、厄除のご祈祷をされた印のお神札で、あなたを守ってください。たとえ神棚がなくても、タンスやロッカーの上などをきれいにしておいて、そこに祀るのであれば問題はありません。お供物はできる範囲でお供えすれば結構です。大切な物は神さまにお守りいただくという気持ち、日々のご加護に対する感謝です。朝には今日一日の無事を祈り、晩には感謝の祈りを捧げましょう。

人間にとって祈ることは自然なことです。祈りは安心につながります。家庭を持てば、もっと守るものが増えます。そしてもっと目に見えないお力が必要となります。神棚はそのときにも設ければよいでしょう。最近本格的な神棚(お神札を収める宮形)の他に、一人暮らしに最適な、場所をとらない壁掛け式の簡易神棚もありますので、氏神神社にお問い合わせください。

Q5 ご祈祷でいただいた木のお神札は、宮形には入りませんがどうしたらよいのでしょうか？

A 宮形の左右にお祀りください。また、神社からいただいた撤下のお供物(お酒、お菓子などは粗末にならないように心掛け、ご家族で召し上がってください。また、いただいたお供物や記念品などは

神棚に上げないようにして、常に神棚の清浄を保つように心掛けましょう。尚、願いが叶ったときは、お礼参りとして感謝を込めてお神札を神社に納めるのが礼儀です。

Q6 「天」や「雲」と書いた紙を、神棚の上の天井に貼るのはどんな意味があるのでしょうか？

A 二階建ての家の「階」に神棚を設けた場合、尊い神さまをお祀りした神棚の上を、階上の人ややむを得ず踏む場合があります。これはあまりに畏れ多いといつことから、せめて「天」「雲」と書いた紙を貼って「神棚より上は天上であり雲上であって、他には何もありません」と、神さまにお許しをいただくという心情を表したものです。

Q7 神饌(お供え)の供え方を教えてください。

A 神棚には、通常、米・酒・塩・水をお供えします。米や塩は平盆、水は水器、酒は瓶子という白色陶器の祭器が用いられます。お供えの仕方は、我国では古来より正中(中心線)を尊ぶため、神棚にお供えする際にも、図のように米を中央とし、次に酒、塩、水をお供えします。米や酒など日常のお供えはもちろんです。そのほか、季節の初物やいただきものなど珍しい食べ物も、神棚にお供えしてから家族でいただくように心掛けたいものです。

お供えの一例

神前



① 米・酒・塩・水を一台に供える例



② 米・塩・水を一台に供える例

●ご質問・お問合せは社務所まで

東京都神社庁

〒107-0051
東京都港区元赤坂2-2-3
TEL 03(3404)6525
<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp>